



長年人手が入らず
放置してある畑は
むしろ自然農法向きで、
土がバランスを
回復しているので
作物がよくできる。
その生命力は
すごいんです。

中谷信弘さん
(70歳・1ターン)
愛媛県内子町
【18ページ】

このクリ園はすっかり樹が古くなって、
クリはあまりとれなくなりました。
それでも秋になれば、加工所を
手伝ってくれるボランティアの人たちと
クリ拾いを楽しませてくれます。



石井礼子さん
(62歳・農産加工起業)
神奈川県秦野市
【14ページ】

せっかく圃場整備がすんだ田んぼが
草ぼうぼうになっていくの
を見ているのはつらい。
なんとかしたいと
仲間と立ち上がったんです。

耕作放棄地 どう生かす？

土地と人との出会わせ方

耕作放棄地を、地域のなかで新
しく農業ができる「余地（余裕
地）」と積極的に考えるとき、そ
の余地と人をどう出会わせるかが
問題となる。そのマンパワーの引
き出し方には、地域性がある。
本号で取り上げた事例から考え

てみよう。

神奈川県秦野市のような都市近
郊地域では、家庭菜園を愛好する
市民がたくさんいて、定年になっ
たらもう少し本格的に農業をやっ
てみたいという人も出てくる。し
かし、その姿は見えにくい。広く
薄く存在するからだ。その潜在的
な「定年新規就農」希望者を引き



柳川瀬義輝さん
(67歳・定年帰農)
兵庫県丹波市
【21ページ】

「先祖の土地を荒らしていて申しわけない」って心では思っている、なかなか言い出せるもんじゃない。案外、地主のほうは「使わせてくれ」って声を待ってるもんだよ。

あこがれの自家菜園。近所の方にとっては持て余した1アールの農地でも、ボクにとっては貴重なわが家の台所です。雑草、害虫と格闘しながらも、無農薬でつくった野菜の味は格別ですよ。

永吉剛さん
(29歳・1ターン猟師)
岐阜県郡上市
【特集外：44ページ】

大塚徳郎さん
(67歳・定年帰農)
千葉県九十九里町
【24ページ】



寄せ、土地に結びつけたのが「はだの市民農業塾」だった。一方、兵庫県丹波市畑内集落のような中山間地帯では農業を担う可能性のある人は限られており、すでに人間関係もできています。そういうところではいかに従来の関係を機能的にするかが問題になった。定年帰農・定年前帰農者がつくれた「はたうち郷クラブ」がそれである。

同じ中山間地でも愛媛県内子町

長田地区のようにいわゆる「限界集落」に近いところになってくると、都市の1ターン者を積極的に受け入れることで、空き家と耕作放棄された農地を生かし、地域に活力を生みだしている。

交流が生まれる活用術

耕作放棄地で何をやるかという「活用術」も大切だ。

千葉県九十九里町田中集落では耕作放棄地で栽培した小麦で年中行事「虫送り」を復活させた。虫送りの主役は子どもたち。年中行事の復活は世代間での文化の伝承の復活でもある。一方、混住化が進む静岡市千代田・竜南地区では、住宅の合間の小さな畑で開かれる朝市が農家と新住民の交流を深めている。

それは大きな農家や経営体に土地を「集積」し、地域のなかで多くの人が暮らしていくくなる「耕作放棄地対策」とはまったくちがうあり方なのである。

	地域区分	マンパワーの中心	活用術のポイント	掲載ページ
神奈川県秦野市	都市近郊	新規就農者		14ページ
愛媛県内子町長田地区	中山間	1ターン者		18ページ
兵庫県丹波市畑内集落	中山間	定年帰農者		21ページ
千葉県九十九里町田中集落	平場	—	年中行事（むらの交流）	24ページ
長野県伊那市グリーンファーム	平場／中山間	—	農産物直売所（広さと地面を生かす）	28ページ
静岡市千代田・竜南地区	都市近郊	—	畑で朝市（農家と新住民の交流）	30ページ